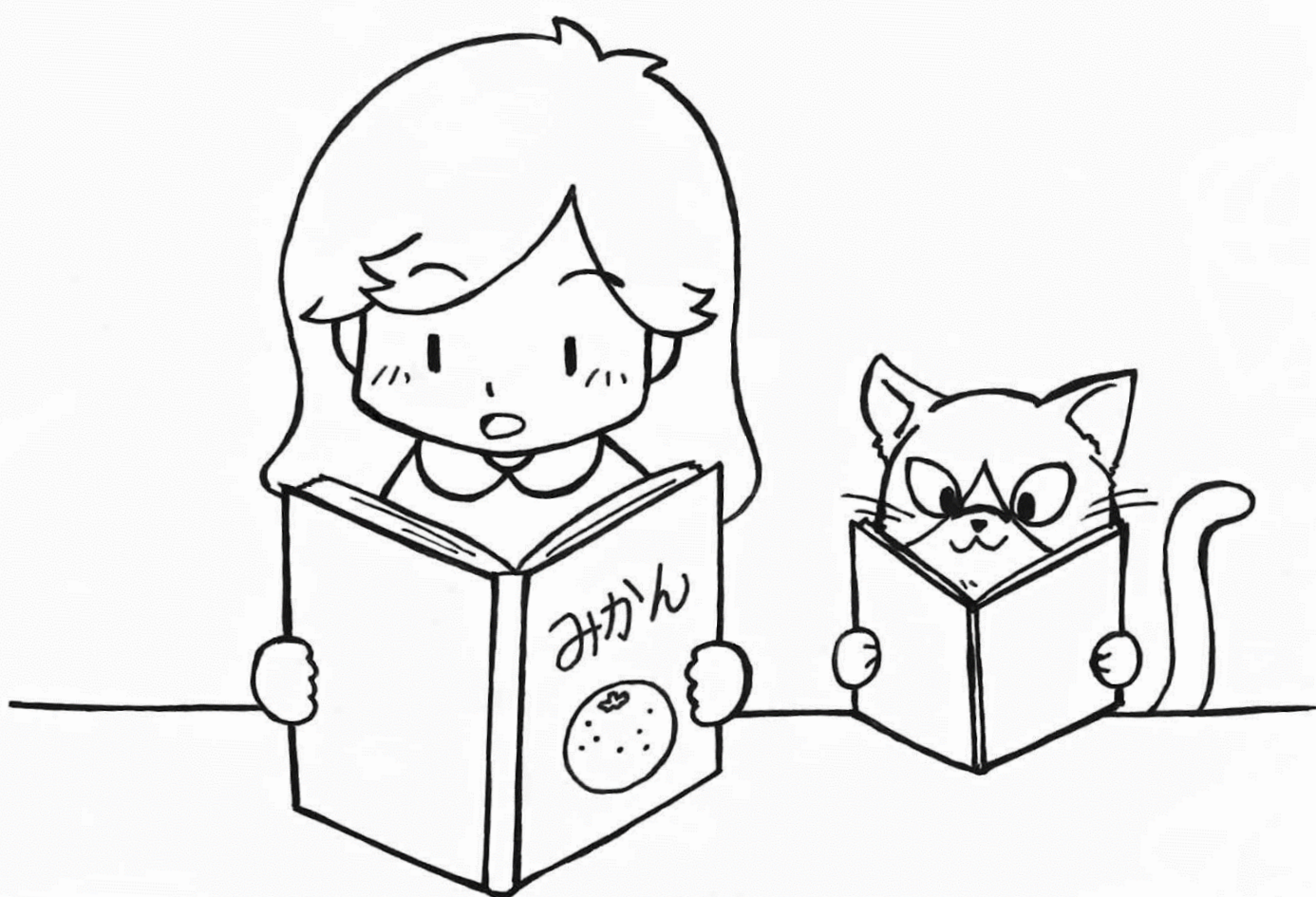


幼児絵本(3~6歳向)

よんで よんで



フリモライフラリーはむら (羽村市図書館)

ウェブサイト <https://www.hamura-library.tokyo.jp/>

おとうさん おかあさんへ

はじめに

3歳から6歳という幼児期は、言葉が発達し、^{ストーリー}物語を楽しむ時期です。

お子さんをひざにのせて、絵本を読んで、子どもとの大切な時間を楽しんでください。



読むときは…

★ “絵” を楽しむ

絵本の中には、いろんな発見があります。子どもは絵の中の小さなできごとを発見するのがとても上手です。お子さんと一緒に“絵”も味わってください。

★何度も繰り返し

同じ本を何度も何度も「読んで！」とせがまれますが、それは子どもにとってその本がお気に入りの本だからです。面倒がらずに、読んであげてください。

★ごっこ遊び

絵本の中の主人公と一緒に喜んだり悩んだりすることで、子どもの心も成長していきます。登場人物になりきって、“ごっこ遊び”をするのも楽しいですね。



昔話

昔話は長い年月をかけ、口で伝えられてきた文化です。

昔話の特徴のひとつに“くりかえし”があります。くりかえしは、より鮮明に状況を理解したり、次に起きることを想像したりすることができます。

子どもの成長に伴い、お話の先を想像する力も備わってきます。



かがくの本

子どもは好奇心のかたまりです。子どもの「知りたい」という欲求は底知れぬものがあります。散歩の時など木の芽や地面をちょっと眺めてみたりしてください。大人が興味をしめすことで子どもの科学の世界も広がります。



おはなしの本 3・4歳向け

はらぺこあおむし

エリック=カール/作・絵 偕成社
もり ひさし/訳 E/カ



ある あたたかい日曜日の朝、ちっぽけなあおむしが生まれました。そこであおむしは食べ物を探し始め…。あおむしの食べ方がとてもユーモラスです。

コッケモーモー！

ジュリエット・ダラス=コンテ/文 徳間書店
アリソン・バートレット/絵 たなか あきこ/訳 E/バ



コッケコーコー！という鳴き方を忘れてしまったおんどり。鳴き方が思い出せず、みんなに笑われてしまいます。ある晩、へんな物音がしたのでおんどりが外に出てみると…。

かいじゅうたちのいるところ

モーリス・センダック/さく 富山房
じんぐう てるお/やく E/セ



マックスは、いたづらをしすぎて寝室にほうりこまれます。すると、木がニョキニョキ生えてきたり、波がザブンとおしよせたり、そこは、あっという間にかいじゅうの国に…。

がたごとがたごと

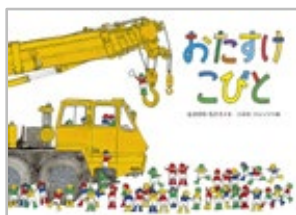
内田 麟太郎/文 福音館書店
西村 繁男/絵 E/二



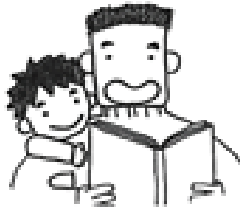
がたごと、がたごと…列車にゆられ、野をこえ山をこえ、ずんずんいくとびっくりすることが！？

おたすけこびと

なかがわ ちひろ/文 徳間書店
ヨコセ ジュンジ/絵 E/ヨ



おうちの人が出かけている間に、こびとたちがキッチンに大集合。クレーン車やショベルカー、ダンプカーにブルドーザー！はたらくくるまでなにを作るのかな？



おはなしの本 5・6歳向け

そらまめくんのベッド

なかや みわ/さく・え 福音館書店
E/ナ



そらまめくんの大事なベッド。だれにも貸さないよ！でも、ある日、そのベッドがなくなっちゃった！シリーズで他の本もあります。

まちのいぬといなかのかえる

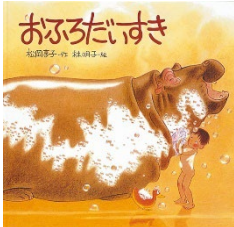
モー・ウィレムズ/文 岩波書店
ジョン・J・ミユース/絵 さくま ゆみこ/訳 E/ミ



まちの犬がいなかにやってきて、いなかのかえると友達になりました。2ひきは、ずっと楽しくあそびすごしましたが、冬になるとかえるは冬眠していなくなっていました。

お風呂だいすき

松岡 享子/作 福音館書店
林 明子/絵 E/ハ



僕とあひるのプッカがお風呂に入っていると、突然大きな亀が出てきました。そして、双子のペンギンやオットセイたちも現れて…！その登場のしかたがごく自然に描かれ、わくわく楽しめる本です。

うんちしたのはだれよ！

ベルナー・ホルツバルト/文 偕成社
ボルフ・エールブルッフ/絵 関口 裕昭/訳 E/エ



ある日のこと、もぐら君の頭にうんちが落ちてきました。目の悪いもぐら君は犯人がわかりません。そこで犯人をさがしにでかけました。

どうぞのいす

香山 美子/作 ひさかたチャイルド
柿本 幸造/絵 E/カ



ウサギは椅子を作り「どうぞのいす」と書いた看板をつけ木の下に置きました。ロバがそこにドングリのカゴを置き昼寝をし、そのドングリをクマが食べ、代わりにハチミツを置き、次にパンを持ったキツネが…。昼寝から起きたロバはびっくり！



かがくの本

すっすっはっはっこ・きゅ・う

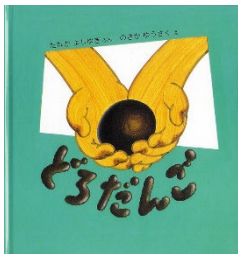
長野 麻子／作 童心社
長野 ヒデ子／絵 E／ナ



「くうきをすって、はいて…すって、はいて」空気をすったりはいたりして、呼吸したらいい気持ちになるよ。いろいろな声をだしてみよう！

どろだんご

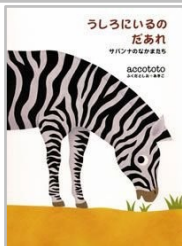
たなか よしゆき／ぶん 福音館書店
のさか ゆうさく／え E／ノ



「どろだんごつくろ、でっかいのつくろ…ピカピカのつくろ。」どろだんごをつくっていく様子がとても楽しそうに描かれていて、思わずつくってみたくくなります。

うしろにいるのだあれ サバンのなかまたち

accototo (ふくだ としお+あきこ)／著
幻冬舎 E／フ



ちょっぴり見えるヒントで、サバンの仲間たちがわかるかな。みんなで当てっこして楽しめます。シリーズで他の本もあります。

アリからみると

桑原 隆一／文 福音館書店
栗林 慧／写真 E／ク



小さなアリの目線になって巣穴の外にでかけてみると…。バッタもクワガタもまるでかいじゅうのように見えます。特殊レンズで撮られた不思議で壮大な虫の世界をのぞいてみてください。

たんぽぽ

荒井 真紀／文・絵 金の星社
E／ア



春になると黄色くてかわいい花を咲かせ、花が終わるとふわふわのわたげをつけるたんぽぽ。たんぽぽのことがよくわかる絵本です。身近なたんぽぽを、この絵本を参考にして観察してみてください。



むかしばなし

おおきなかぶ

内田 莉莎子／再話 福音館書店
佐藤 忠良／絵 E／サ



おじいさんがかぶの種を植えたら、とても大きなかぶができました。おじいさんだけでは抜けなかったので、おばあさんをお呼びで…。

こぶとじい

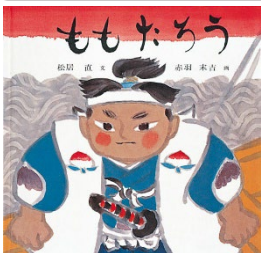
宮川 ひろ／ぶん ほるぷ出版
箕田 源二郎／え E／ミ



ほっぺたに大きなこぶのあるおじいさんが、お堂で休んでいて目をさますと、天狗がお酒を飲んでおどっていました。おじいさんもおどりに参加すると…。

ももたろう

松井 直／ぶん 福音館書店
赤羽 末吉／え E／ア



おばあさんが川で洗濯をしていると、大きな桃が流れてきました。切ろうとしたら、なんと桃から男の子が生まれました。すくすくと成長した男の子は、鬼が島の鬼が悪事をしていると聞き、鬼退治にでかけることに…。

わらしべちょうじゃ

杉山 亮／文 小学館
高畠 那生 E／タ



貧しいけれど心の優しい若者がひろった、たった一本のわら。「明日の朝、一番最初に道でひろったものを大事にしてください。」夢にあらわれた観音さまの言うとおりにして、大事に持っていると思ってもよらないことがおこって…。

三びきのこぶた

瀬田 貞二／やく 福音館書店
山田 三郎／え E／ヤ



三びきのこぶたは、それぞれ家を建てることになりました。はじめのこぶたはわらで、つぎのこぶたは木の枝で家を建てましたが、おおかみに家を吹き飛ばされ、食べられてしまいました。三ばんめのこぶたは知恵を働かせて…。